

なる奮闘の下に同地方特志家の協力、賛助を得て救護金品を募集し其内寄贈品は明地丸、大連丸の二隻にて大柵四十八個にして本部を通じて之を横濱残留家族と神戸地方避難家族に贈呈し、義捐金は小樽に於て金壹百圓也を同市役所に寄附し残金五百〇七圓七拾參錢の送付を受け、一般救護資金に繰入れ以て寄附者各位の希望に副ふこととせり。

門司及戸畑所員も亦本團の救護事業に策應し、各船員の義捐金を集め本部に送付するの方針を採れり(十月二十日まで壹百九拾貳圓五拾錢)

救護の方針と順序

第一期救護は取敢へず震災地に於ける危険より一と先づ安全なる立退先に至るまで、若くは震災地の秩序回復するまでの間に必要なる應急救護、即ち救護品の配給、及避難者收容の終了を以て一段落とし、第二期は現在残存せる義捐金を元として罹災海員に對し毛布代の意味に於て一率に金五圓宛を贈呈し、第三期に於ては今後受入の義捐金を以て家族持ちの人々に向て相當の金額を贈呈し、以て冬

期に於ける寢具調達の一助に供せんことを。

非常震災海員家族救護團名簿

救護團長 兼委員長	榎崎猪太郎	救護團副長 兼副委員長	濱田國太郎
本部常務員	北野勇吉		福本九平
同	佐藤貞藏	同	赤崎寅藏
同	久保田於兔彦	同	横山善太郎
同	横山孫作	同	岡島雅雄
同事務助手	山端英司	同	後藤柳助
横濱支部 常務員	堀内長榮	同	平井敬次郎
同	赤木萬造	同	藤本卓
同	藤井寺親義	同	關谷忠一